

中学生年代のスポーツ指導における要点

※本動画は、指導者講習会限定配信となります。
※本資料の無断転載は禁止とさせていただきます。

びわこ成蹊スポーツ大学
教授 黒澤寛己

自己紹介 黒澤 寛己 博士（政策科学）

専門領域 スポーツ政策学・スポーツ教育学

1968年 京都市生まれ

1992年 大学卒業後、

京都市立高等学校教諭を経て

2016年4月から、

びわこ成蹊スポーツ大学勤務

日本体育・スポーツ政策学会理事

日本部活動学会会員

滋賀県、大津市、彦根市、多賀町

部活動地域移行連絡協議会委員

京都府高等学校体育連盟

普及委員

調査研究部員

柔道専門部委員

1997年

京都インターハイ大会役員

国民体育大会

京都府女子柔道競技 コーチ

講道館柔道六段

スポーツ・部活動指導歴

京都市立西京商業高校（12年）

○女子硬式テニス ○柔道部

○珠算部 ○軽音楽部

京都市立伏見工業高校定時制（4年）

○柔道部

京都市立塔南高等学校（8年）

○男子バレーボール部 ○弓道部 ○陸上競技部

○書道部

びわこ成蹊スポーツ大学

○男女ハンドボール部（部長）

OECD国際教員指導環境調査（TALIS）2018調査結果 vol.1(令和元年6月19日公表)

- 日本の中学校教員の1週間当たりの仕事時間は
参加48か国中、最長である。56時間（平均38.3時間）
 - 特に課外活動（スポーツ・文化活動）の指導時間が長い。
7.5時間（平均1.9時間）
- ⇒「ブラック部活動」と批判の対象となる。

現状の部活動地域移行・展開の類型

①完全地域移行型

神戸市（コベカツ）、京都市など

②休日移行型

曜日単位（休日のみ）、種目単位での移行
長崎県長与町など

③学校運動部主体（連携）型

外部指導者、部活動指導員と連携
地域・保護者・卒業生などのボランティア

1. スポーツ指導・部活動指導のあり方について

2. 運動部活動の運営について

対象：中学校の教職員、部活動指導員、外部指導者、
競技連盟役員、地域クラブ活動指導者、保護者

スポーツ指導・部活動指導のあり方

中学校学習指導要領（平成29年4月告示）

第1章 総則第5の1のウ（抜粋）

特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、**学習意欲の向上**や**責任感、連帯感の涵養**等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。

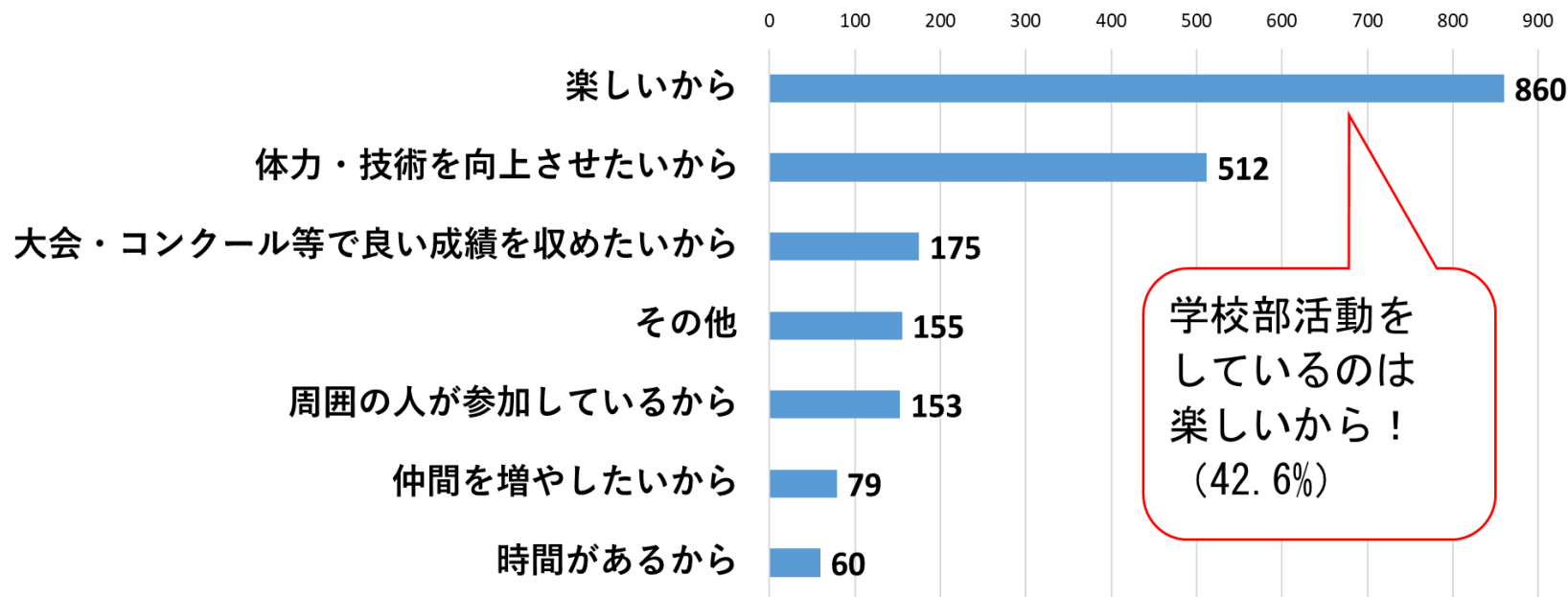
その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。

びわこ成蹊スポーツ大学とA市の部活動に関する取組

令和5年度 生徒向けアンケート調査から

学校の部活動に入部した理由（2,017人）

無回答者23人は非掲載



中学校学習指導要領（平成29年4月告示）

第1章 総則第4の1の(2) 生徒指導の充実

生徒が、**自己の存在感**を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における**自己実現**を図っていくことができるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること。

部活動の教育効果 「部活動と生徒指導」

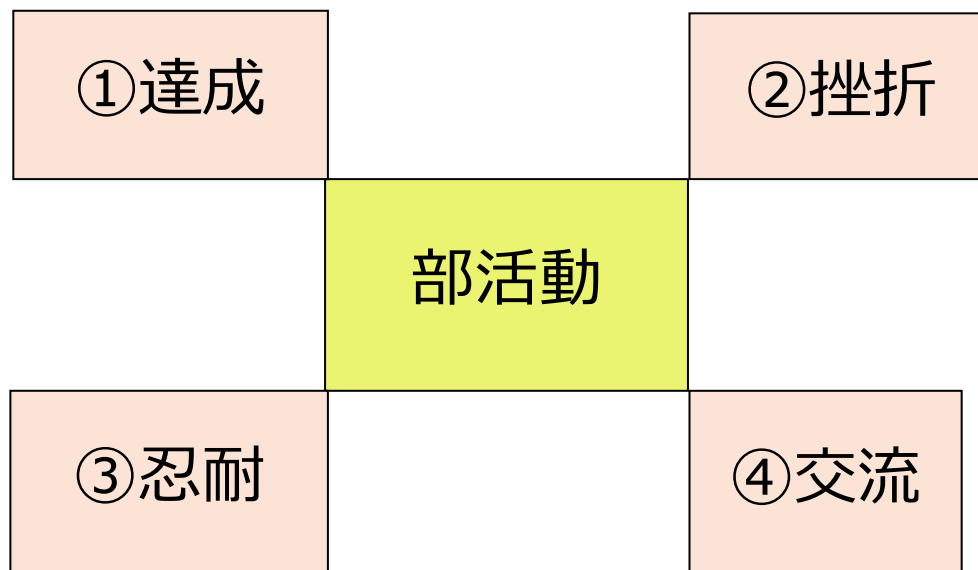
吉田浩之（2009）

- ・部活動を1日2時間、週5日間、年35週とすると350時間となる。
- ・土曜・日曜日、長期休業期間にも実施される。
さらに3年間、継続的に取り組むことができる。
（保健体育：週3時間×35週＝105時間）

⇒計画的に進めていけば、きわめて大きな教育的成果が期待できる。

部活動を通じて会得できる体験

ライフスキル教育の観点から



黒澤寛己（2008）

中学校学習指導要領（平成29年4月告示）

第1章 総則第4の1の(3) キャリア教育の充実 抜粋

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、**社会的・職業的自立**に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

部活動と教育課程との関連

- 中学1年 保健分野

- 「社会性」

- 主体性や協調性、責任感など社会の中で生きていくために必要な態度や行動の仕方

- 中学2年 体育理論

- フェアプレイやチームワークなど、スポーツへの参加は、「社会性」を高めるよい機会

部活動の運営

(中学生年代へのスポーツ指導者としての関わり)

指導・運営に係る体制の構築

滋賀県教育委員会（2023）

部活動の指導について（改訂版）

校長は、顧問の決定にあたっては、校務全体の効率的・効果的な実施に鑑み、教育の他の校務分掌や、部活動指導員や外部指導者の配置状況を勘案したうえで
行う。

体育科の教員以外で、競技経験の無い顧問
全体の26.9% （日本スポーツ協会2021）

顧問の役割（参考例）

• 直接的指導

平日の練習指導
休日の練習指導
試合の引率

カウンセリング

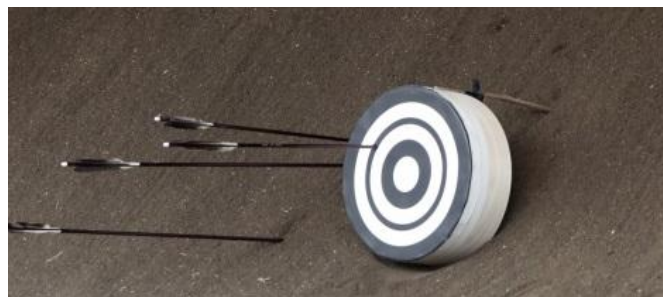
間接的指導

練習計画の作成・印刷
部予算の適切な管理
部活動日誌の指導
顧問会議の参加
大会の運営
保護者への連絡
競技団体との調整

部の目的と目標

(部員・顧問、関係者で共有する価値観)

目的 = 部活動を通じて、なりたい姿のこと。



目標 = 部活動を通じて達成したい技能の向上や試合の結果のこと。



活動時間・休養日について

滋賀県教育委員会（2023）

部活動の指導について（改訂版）

○活動時間の設定

- ・中学校においては、平日は概ね2時間とし、土曜日・日曜日、学校の休業日は3時間以内とする。

○休養日の設定

- ・中学校においては、週2日（平日1日と週休日1日）以上を休養日とする。

○朝練習は原則行わない。

滋賀県教育委員会（2023） 部活動の指導について（改訂版）

○顧問は、校外活動においても怪我や事故の防止に努め、行き先、宿泊先および連絡方法等を学校や保護者に事前に知らせたうえで承諾を得るなど、無理のない計画、立案および実施が必要です。

○（校外活動は）校長に許可を得たうえで、校外行事届を教育委員会に提出すること。また、帰校時には校長等に報告すること。

部活動のマネジメント

PM理論 リーダーシップ行動

P、パフォーマンス 目標達成機能

M、メンテナンス 集団維持機能



教師教育の視点から

部活動顧問へのインタビュー調査

部活動指導を通して

「教師として集団指導の能力が高まった」

「生徒との関係性を構築することができた」

「生徒指導力が高まった」

「先輩教員からの指導が参考になった」

部活動の効果

- 組織マネジメント
- 生徒とのコミュニケーション
- 先輩教員からの指導

黒澤寛己（2015）

体罰等の防止

学校教育法

(児童・生徒への懲戒)

第11条 校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。

部活動指導において、体罰、暴言、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントと判断される行為や発言は絶対に許されない。

体罰等の許されない指導

運動部活動の在り方に関する調査研究報告書

○身体に対する侵害

殴る（ビンタ・拳骨）、蹴る等

○肉体的苦痛を与える

長時間の正座、直立、水を飲ませない、

長時間のランニング

無理な練習

（投げる、抑える、ボールをぶつける）

○ハラスメントと判断される言葉や態度

人格否定、特定の生徒への攻撃など

OECD国際教員指導環境調査（TALIS）2018調査結果 vol.1(令和元年6月19日公表)

- 日本の中学校教員の1週間当たりの仕事時間は
参加48か国中、最長である。56時間（平均38.3時間）
- 特に課外活動（スポーツ・文化活動）の指導時間が長い。
7.5時間（平均1.9時間）

日本の学校教育への高い評価

⇒OECD教育政策レビュー（2018）

○日本の学校教育は教科だけでなく、給食活動や**課外活動などの広範囲の活動に関わる全人的アプローチ**をとっている。

○日本の教育が成功を収めている要素の一つは子供たちに**全人的な教育**を提供している点であると言える。教員の質は高く、良心的で指導力があり、広い視野で生徒をケアし、生徒は積極的に学校に関わり、保護者は教育に協力的で学校外の学習にも支出し、地域は様々な形で学習をサポートしている。

主な引用参考文献

- ・ 原田隆史（2005）「成功の教科書 熱血！原田塾のすべて」小学館
- ・ 黒澤寛己他（2008）「ライフスキル教育—スポーツを通して伝える「生きる力」」昭和堂
- ・ 吉田浩之（2009）「部活動と生徒指導 スポーツ活動における教育・指導・援助のあり方」学事出版
- ・ 運動部活動の在り方に関する調査研究協力者会議（2013）
「運動部活動の在り方に関する調査研究報告書」
- ・ 黒澤寛己（2015）「運動部活動を活用した教師力向上政策：「教師教育」を視点に」『同志社スポーツ健康科学 7 巻』同志社スポーツ健康科学会
- ・ 文部科学省（2017）中学校学習指導要領（平成29年4月告示）
- ・ OECD国際教員指導環境調査（TALIS）2018調査結果vol.1(令和元年6月19日公表)
- ・ 西川純（2022）「部活動顧問の断り方」東洋館出版社
- ・ 友添秀則・衛藤隆他（2024）「最新中学校保健体育」

中学生年代のスポーツ指導に おける要点

※本動画は、指導者講習会限定配信となります。
※本資料の無断転載は禁止とさせていただきます。

滋賀県教育委員会事務局保健体育課
主幹 二宮 良信

滋賀県中体連
理事長 折井 重之

びわこ成蹊スポーツ大学
教授 黒澤寛己